



### ■ダチョウの生き方ー1学期終業式にてー

1学期も今日で終わりです。令和5年度も3分の1が終わりましたね。始業式・入学式で皆さんには「向き合う。その先に…」という合言葉を示しました。この1学期、皆さんは、どのくらい自分自身と向き合えましたか？

この図はある国の国章（マーク）です。どこの国かわかりますか？そうオーストラリアです。左側のカンガルーは有名ですね。では、右側の動物はわかりますか？この動物

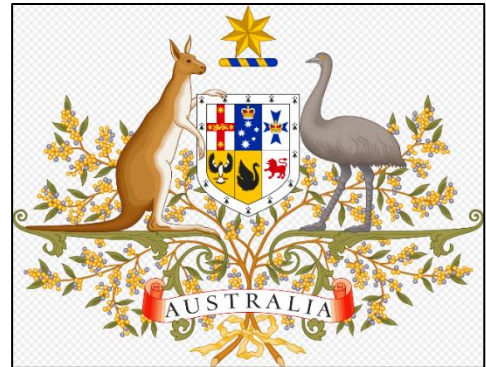
はダチョウ目のエミューというダチョウよりもやや小柄な鳥です。カンガルーとエミューが抱えている中央の図形はオーストラリアの国土を示していて6つの行政区の紋章が描かれています。この2つの動物が国章に採用された理由は何でしょう？それは、両者とも前進しかできないということからだそうです。後ろを振り返らず、前へ前へと国づくりを進めようとする建国者の意気込みを感じますね。

ダチョウもエミューも鳥の仲間ですが、空を飛ばません。その代わりに鳥の仲間には通常4本ある足の指を2本または3本に進化させて、とても早く走れるようになりました。ダチョウは約70 km/h、エミューも約50km/hの速さで走ることができます。空を飛ぶことができない、後ろに進むことができないという弱点・ウィークポイントを補って余りあるダチョウやエミューの強み・ストロングポイントといえるかもしれませんね。皆さん、自分も持っている強み・ストロングポイントって何か認識していますか？「夏休みは“弱点克服”」というフレーズはよく聞きますが、あえて強み・ストロングポイントを伸ばしてみる機会にしてみるのもいいのではないのでしょうか？何より、自分の長所について考えるのはポジティブでいい気持ちになれますからね。

ところで、ダチョウは、敵に襲われるなど危険が迫ったときは頭を砂の中に入らずめてじっとする習性があるといわれていました。現代の科学では、ダチョウにそのような習性はないといわれていますが、心理学の世界では「オストリッチ・コンプレックス（ダチョウ症候群）」という用語として語られることがあります。「オストリッチ・コンプレックス（ダチョウ症候群）」とは、目の前にある課題や危険に正面から向き合わず、何もしないでやりすごそうとする心の状態です。危険が迫ったときのダチョウのように、砂の中に頭をうずめることにより安全な場所に隠れたつもりになっている様子に例えたものです。

難しい局面や難題に直面したとき、私たちは意識的・無意識的につい見ないふりをしたり、避けて通りがちになったりします。明日までにやらないといけない課題があるとき「ひとまず今晚は寝て明日起きてからやろう！」と思ったりしますよね。多くの場合は起きませんが…。そうして問題を先延ばしにして、時間だけが過ぎていきます。目の前の状況は変わらないのに、です。このような行動はどこかダチョウの習性（科学的には否定されていますが）に似ていませんか？

ダチョウのもつ強みと弱さ（あくまで心理学用語でのことですが）、自分に置きかえて考えてみませんか？“向き合う”夏に。さあ「君たちはどう生きるか？」



終業式では国名の部分は隠しました